



いつもJA津安芸をご利用頂きありがとうございます。
JA津安芸管内の農業情報や農業を営む担い手の皆様に
少しでも役に立つ情報をお届けさせていただきます。

飼料米あきだわらのいもち病対策！ いもち病は、予防的防除が効果的！！

伝
染
経
路

種子伝染

- 自家採種
- 飼料用イネ専用品種
- 契約栽培米品種

地域伝染源

- こぼれた感染もみ・わら
- 近隣の発病水田

いもち病の発生！

いもち病の発生しやすい条件

- 20℃前後の気温である程度の時間葉が濡れていると感染し発病する。
- 多肥栽培で葉色が濃いと感染しやすい。（あきだわら注意！！）

多収性品種（あきだわら）でいもち病菌を蔓延させないために！

〈3つのポイント いもち病菌を持ち込まない！発病させない！増やさない！〉

① 持ち込まない！

健全種子の利用

- 購入種子の利用



② 発病させない！

育苗期の徹底防除

- 種子消毒
（自家採種では必須！）
通常の種子消毒
+（プラス）
ベンレート水和剤の活用
500倍～1000倍の希釈液
に24時間浸漬
100g 当用価格 1,020円

③ 増やさない！

田植え期防除

- 箱施用殺菌剤の紹介
・ルチリ粒剤1kg 2,600円
・ブイット707Aブル（50倍液）
苗50枚分
500ml 当用価格 2,000円

**多肥栽培で多収を
目指す為には
箱施用剤が有効です。**

※本田防除など生育後期になればなるほど防除作業労力が大きくなり大変です。

（予防的防除が有効）

※近年三重県でも登録がある農薬であっても効果を示さないいもち病菌が確認されていますので
防除薬剤についてはJAへお問い合わせください。

追
伸

近隣の県でヒメトビウンカが伝染源となる縞葉枯病が問題になりつつあります。
6月に生育初期を迎える圃場で発病しやすいので、遅植え圃場は要注意！！
おかしいと思ったらすぐに連絡ください。